

防災豆知識

- ・ **マグニチュード**

地下で大陸プレートが滑る時の規模の大きさ

- ・ マグニチュードが大きい＝広い範囲で被害が大きい
- ・ 震源が浅い＝揺れが大きい
- ・ 震源に近いほど建物の揺れ（震度）が大きい
- ・ マグニチュード＝地震の規模を表す
- ・ 震度＝各地の揺れの大きさを表す。

因みに 阪神淡路大震災までは震度は人が感じた体感表に基づいて決められていたそうです。 なんとアナログ的で適当な！ 信じられません。（笑）

- ・ **海溝型地震**＝海中のプレートがズレて起こる地震

（東日本大震災や今後予想される南海トラフ地震など）

揺れ幅が大きく長く揺れるのが海溝型地震の特徴

- ・ **内陸型地震**＝大陸内の活断層がズレて起こる地震

（阪神淡路大震災や熊本地震など）

揺れ幅は小さく上下左右の振れが強いのが内陸型地震の特徴

- ・ **トラフ**＝水深 6000m より浅い場所にある溝の事

＝海と陸のプレートの境で海底に沈み込んだ地形

ややこしい表現

- ・ 大津波警報・・・10m 超
- ・ 津波警報・・・5～10m
- ・ 津波注意報・・・0.2～1m

避難場所と避難所の違い

- ・避難場所・・・災害の危険から逃れる為、一時的に避難する場所
- ・災害時避難所・・・災害で住宅に暮らせない住民が避難生活を行う場所

災害時における住民への避難の呼びかけ

・発令順

- ① 避難準備・高齢者等避難開始・・・速やか避難が出来るように準備を促す
 - ② 避難勧告・・・住民に安全のために早期の避難を促す
 - ③ 避難指示（緊急）・・・危機的状況である場合に緊急避難を呼びかける
- の3種類があります。

※令和元年6月5日から警戒レベルを付記することとなりました。

危険度や切迫性は、避難準備・高齢者等避難開始→避難勧告→避難指示（緊急）の順に高くなります。

・警戒レベル3【避難準備・高齢者等避難開始】

避難が必要となるような災害が起こると予想されるとき。

地域の皆さんが、速やかに避難できるよう準備をうながします。

また、避難に時間がかかる方には避難行動※をうながします。

・警戒レベル4【避難勧告】

安全のため、早めの避難をうながす時に出されます。

拘束力はありませんが、必要に応じて早めの避難をして下さい。

・警戒レベル5【避難指示（緊急）】

火災・洪水などにより著しい危険が切迫している時に出されます。

垂直避難する、親類の家に避難するなど、すみやかに避難して下さい。

*****余談*****

災害発生、被災日は好天候とは限りません

阪神淡路では1月の真冬、東日本では3月とまだまだ寒い

私の知っている天気表記を書きました

- ・霰（あられ）・・・5mm 未満の氷のかたまり

- ・雹（ひょう）・・・5mm 以上の氷のかたまり

（字の通りで、氷が散るとあられ、その霰にさらに氷がついて包むとひょう）と覚える。

- ・曇り時々雨

- ・曇り一時雨

どちらが長く降ると思いますか？

仮に、朝6時から夜6時の12時間内で3時間以上雨が降れば「時々雨」

3時間未満の雨なら「一時雨」

「時々雨」の方が長く降るので、被災地、救助等、雨対策が必要です。

JR3UGN 滝野正史
